

「アシスト 春喜の会2026」

ビル・トッテンの講演でいただいたご質問への回答

ビル・トッテンの講演に対して、たくさんコメントやご質問をいただき、ありがとうございました。
トッテンからの返信や回答をまとめましたので、ご覧ください。

目次

- [主なご感想](#)
- [中国の実態\(信頼性・技術・経済\)](#)
- [米国の現状](#)
- [日本の未来と外交について](#)
- [10年後のAI・ITと世界](#)
- [情報ソースとリテラシー](#)

主なご感想

- 日本のメディアやネット情報が伝えない、あるいは意図的に報じない事実を知ることができ、非常に新鮮で刺激的でした。
- メディアの情報を鵜呑みにせず、事実(ファクト)に基づいて世界情勢を捉え直す機会になりました。
- 報道を鵜呑みにしてはならないと感じました。物事の見方、視点が参考になります。
- 米中関係の今まで見えていない観点を知ることができました。目からウロコですね。
- 中国の技術力や経済発展の実態、EVの普及スピードなど、現地のリアルな状況を知ること、従来のネガティブな印象がアップデートされました。
- 日本が米国の「属国」のようにになっている現状への危機感や、独立した主権国家として米中や諸外国と対等に付き合うべきだというトッテン氏の見解に共感しました。
- 中国の技術進歩や最新技術を取り入れるスピードの早さは、弊社グループ会社からも感じており、納得するものでした。
- 米中に対するトッテン氏の見解が聞けて有意義でした。日本という国がどうなるか、世界がどうなるのか見守っていきたいです。
- 毎年この講演を楽しみにしています。情報の偏りを修正し、物事を考える良い機会になっています。

中国の実態(信頼性・技術・経済)

- 中国が発表するデータは信頼できるのか？
- 中国を全面的に信用できないが、ビルさんはどのように思われるか？

今回の講演で使用したデータは、中国独自のものではなく、すべて国際機関(世界銀行やIMFなど)や公的機関、メディアから得た情報です。

中国が世界に嘘をついている、あるいはアメリカ以上に嘘をついていると思われる理由や証拠は何でしょうか？

「中国は信用できない」という先入観を持つのではなく、まずはご自身の目で、現地の街並みや技術、人々の生活を確かめてみることを強くお勧めします。

- 中国国民は、国を信頼していない人が多いのではないかと？

国民の信頼についてですが、ハーバード大学アッシュセンターの調査「Understanding CCP Resilience(中国共産党の強靭さを理解する)」によると、2016年までのデータで中国の中央政府に対する高い市民満足度(93.1%)を示しています。

https://rajawali.hks.harvard.edu/wp-content/uploads/sites/2/2020/07/final_policy_brief_7.6.2020.pdf

これが中国政府による調査ではないことが重要です。

中国の人々は「信頼」を二元的に捉えず、実務的に向き合っている面もあります。

中国出身のアシスト社員の意見を聞いてみました。

中国の大学卒業後、来日して大学院で修士号を取得。6年前にアシストに入社し、現在は、株式会社アシストリンクテクノロジーの社員です。

【中国出身の社員による視点】

ご指摘の点については、一概に「信頼していない」と言い切れるものではなく、非常に多面的な状況にあると考えています。まず、中国では国家に対する基本的な信頼や期待は依然として強く、特に経済成長やインフラ整備、生活水準の向上といった面においては、多くの人々がその成果を実感しています。一方で、急速な社会変化の中で、教育・医療・不動産・雇用など、個別の社会課題に対する不安や不満が存在するのも事実です。そのため、「国家全体への信頼」と「個別分野への不安」が併存している状況と言えます。

また、中国では日本とは異なり、政府や社会に対する意見の表現の仕方や前提も異なります。例えば、中国では政策や社会課題に対する不満が日常的に語られることがありますが、それは必ずしも国家全体への不信を意味するものではなく、「より良くなることを前提とした現実的な意見」として表現されている場合が多いと感じています。さらに、国家全体への評価と個別分野への不満が同時に存在することも一般的であり、この点が外からは「信頼していない」と受け取られる一因になっていると考えられます。

私自身の実感としては、中国の人々は「国を全面的に信じる／信じない」という二元的な捉え方ではなく、「現実的にどう向き合うか」という非常に実務的な姿勢を取っていると感じています。総じて、中国社会は信頼と不安が併存するダイナミックな状態にあり、それが現在の成長の一因にもなっていると考えています。以上が、私個人の観点からの回答となります。ご参考になれば幸いです。

【ご参考】

[賀茂川耕助ブログ No.2736「中国の社会的信頼が回復」](#)

- 中国の暗部の情報も知りたい。

一般的に西側が中国の「暗部」だと言っていることについて、賀茂川耕助ブログの関連記事をお読みいただければ幸甚です。

【ご参考】

[賀茂川耕助ブログ No.2838「中国分割計画: 新疆、分離主義、そして三国家構想」](#)

[賀茂川耕助ブログ No.2749「新疆における米国の長期戦略」](#)

- 中国製品を導入すると情報を搾取されるといった話があるため、なかなか導入に踏み切れない。

中国が情報を搾取していることを懸念するのであれば、米国製品の使用も気にするべきかもしれません。賀茂川耕助ブログの関連記事です。

【ご参考】

[賀茂川耕助ブログ No.1298「米国内TikTok使用禁止」](#)

[賀茂川耕助ブログ No.1281「スパイ活動疑惑」](#)

[賀茂川耕助ブログ No.1403「嘘の上に築かれた国-米国はいかにして豊かになったか\(パート6a\)」](#)

[賀茂川耕助ブログ No.1406「嘘の上に築かれた国-米国はいかにして豊かになったか\(パート6b\)」](#)

[賀茂川耕助ブログ No.2423「ほかに誰がアップル・ユーザーの暗号化データへのアクセスを望むのか？」](#)

- 中国は、レアアースは豊富にあるものの、半導体技術はまだまだのレベルではなかったですか？

賀茂川耕助ブログの関連記事をお読みいただければ幸いです。

【ご参考】

[賀茂川耕助ブログ No.2610「チップ戦争とレアアースを巡る争い」](#)

[賀茂川耕助ブログ No.2724「中国型先端技術 – 飽くなき革新への推進力」](#)

- 中国共産党の影響力が強すぎるため、関係継続には課題があるのでは？

なぜ中国における共産党の影響力が強すぎるとお考えになるのでしょうか。中国の指導者の選び方は、多くの企業と同様ではないでしょうか。企業の経営者が選挙で選ばれるわけではないのと同様、中国の指導者は選挙では選ばれておらず、お金(政治献金)の影響を全く受けません。

【ご参考】

[賀茂川耕助ブログ No.2413「なぜ米国は中国との冷戦を中国共産党との戦いとして描くのか？」](#)

- 中国のアリババをはじめとした億万長者への制裁、若い人の就業問題については、どのように思うか。

アリババのジャック・マーの件について。中国の決済市場を支配するアリババの決済サービスプロバイダー(数十億ドル規模のアリ・フィナンシャル)の株式公開(IPO)を中止したのは、米国のようにブラックロックとその関連投資ファンドによって経済が支配されることを中国政府は許さなかったからです。失業問題は中国に限らずアメリカでも大きな問題になっています。特に若者の失業(学生ローンで大学を卒業しても仕事がない)は深刻です。日本でも労働者の37%が低賃金で不安定な非正規雇用という問題を抱えています。

【ご参考】

[賀茂川耕助ブログ No.1848「中国に関する10の作り話 – Part 2」](#)

- 中国の軍事は守りではなく、日本に向けての攻めのものだと思っている。

中国の軍備が日本に向けてのものだとしたら、巨大な中国が小さな日本を攻撃して何を得的というのでしょうか。中国が他国を攻撃した例はありますか？

中国の軍事増強は、米国とその植民地のような日本からの侵略を防ぐためだと私は思います。

【ご参考】

[賀茂川耕助ブログ No.2726「台湾問題における高市首相の姿勢はまさに西側が望むもの」](#)

[賀茂川耕助ブログ No.2727「台湾をめぐる日中の緊張」](#)

- 中国による助けるふりからの乗っ取りについても考えをお聞かせいただきたい。

助けるふりをした乗っ取りとは「債務の罠」のことかと思しますので、賀茂川耕助ブログの関連記事をお読みいただければ幸いです。

【ご参考】

[賀茂川耕助ブログ No.2738「中国の「債務の罠」にかかった一番大きな魚」](#)

[賀茂川耕助ブログ No.2754「『隷属への道』—本当の債務の罠」](#)

- 日本はレアアースを中心に脱中国へ向かっているが、どのように感じているか。

中国は日本の最大の貿易相手国です(貿易総額の20%以上)。特にレアアースは70%が中国からの輸入です。講演でもお話ししましたが、西側諸国のリーダーは中国との新たな貿易協定の合意を取り付けるのに必死になっています。米国でさえもです。なぜ日本だけ、中国と敵対しなければならないのでしょうか。

【ご参考】

[賀茂川耕助ブログ No.2729「中国レアアース産業は40年かけて独占状態を達成」](#)

- 中国からは、日本はどのように思われているのか？

中国人ビジネスマンによるこの分析が参考になると思います。

【ご参考】

[賀茂川耕助ブログ No.2746「日本が台湾の戦争に参加したらどうなるか」](#)

[賀茂川耕助ブログ No.1685「日本と中国の歴史」](#)

また一般の中国人が日本をどう思うか、私は知らないのですが、中国出身のアシスト社員の意見を紹介します。

【中国出身の社員による視点】

中国の日本に対する見方は以下の3つの側面が複雑に絡み合っていると言えるでしょう。

- ①政治・歴史レベルでの対立と不信感
- ②文化・経済レベルでの強い憧れと尊敬
- ③個人レベルでの多様な感情と相互理解の深化

また「中国が偉大である」という自負心と、隣国である日本に対する複雑な感情が入り混じっているのが現状です。政治的な対立が時にメディアで大きく取り上げられますが、多くの中国人は、政治と文化、そして個人間の交流を分けて考えています。

私自身、日本で学び、働く中で、両国の間には確かに難しい問題があると感じる一方で、それ以上に、互いに学び合い、協力できる可能性に満ちていると実感しています。総じて、中国の対日感情は「好きか嫌いか」という単純なものではなく、「どう付き合っていくか」という非常に実務的な視点にシフトしていると言えるでしょう。

- アメリカとイスラエルの関係には、ユダヤ人の歴史が関連していると思ってる。中国とユダヤ人との関わりはあるのか？

私も中国と「ユダヤ人」に関する知識はなかったので調べてみたところ、古くからユダヤ人と中国との交易がありました。

1840年以降は上海や香港などの条約港でユダヤ人コミュニティが拡大し、第二次大戦の時にはホロコースト避難地としてナチス占領下のヨーロッパから約2万人ほどのユダヤ人難民が避難していたそうです。

中国とイスラエルは(国家間)1992年に正式に外交関係を樹立し、経済関係は堅調で、中国はイスラエルにとってアジア最大の貿易相手国です。地政学的には、中国はイスラエルとパレスチナの両方と関係を維持し、二国家解決案を支持しながら国連ではパレスチナの立場に賛成票を投じています。

また、中国はイスラエルの軍事行動を批判し、イランとの関係を強化しているため、現在は両国間の関係は微妙なところにあると言えます。中国のアプローチは、不干渉と経済的現実主義を重視していると言えるでしょう。

また、中国政府はユダヤ民族とイスラエル国家政策(シオニズム)を区別しているのも重要な点だと思います。

米国の現状

- 米国の大統領選や民主主義の現状をどう見ているか。

健全な民主主義には、自ら思考し、正しい情報を見極める「教育された市民」が不可欠です。しかし、現在の米国はその基盤が揺らいでおり、その結果が現在の政治的な混乱に繋がっています。

日本もこれを他山の石とし、自立した思考を持つことが重要です。

米国の民主主義について、賀茂川耕助ブログNo.2815をお読みいただければと思います。

【ご参考】

[賀茂川耕助ブログ No.2815「いいえ、結構です。」](#)

- なぜ、トランプ氏よりまともな人物が大統領になれないのか？

教育を受けた「思考する市民」がいなければ民主主義は成り立ちません。米国の現状がその一因であると考えられます。

米国の民主主義については、賀茂川耕助ブログNo.2815に答えの一部があると思います。

またNo.2820に書かれているように、「教育を受けた思考する市民がいなければ、民主主義は成り立たない」ことも一因だと思います。日本が米国とも中国とも友好的な関係を維持することが、平和のためにも経済のためにも重要であることは、言うまでもありません。

【ご参考】

[賀茂川耕助ブログ No.2815「いいえ、結構です。」](#)

[賀茂川耕助ブログ No.2820「アメリカ教育の崩壊」](#)

- アメリカの議員や国民は、なぜトランプ大統領の暴走を止めないのか？

米国の議員にとって、イスラエルロビーからの支援を受けることは「超党派の常識」となっており、特に下院においてはほぼ全ての議員(95%以上)が献金リストに名を連ねているからです。

世論調査によると、イスラエルのためのイラン戦争であることに米国民は気付きつつありますが、どうしようありません。

日本の未来と外交について

- 日本は米国よりも中国に近づくべきなのか？

日本は、米国と中国どちらか一方に偏るのではなく、米国や中国、そして日本を主権国家として扱う全ての国々と良好な関係を築く「独立した国」になるべきだと言いたいのです。

現在は米国の強い影響下にありますが、日本国民の利益を最優先に考え、対等に付き合える関係を築くべきです。

- 日本国内では、中国マネーに陰りが見られ、資金繰りに苦しんでいるように思える。国内の状況において、これからの中国の影響をどのように考えているか。

投資に限らず、貿易や人的交流において中国の影響はますます大きくなるでしょう。日本は中国と良好な関係を築くことができるし、築くべきだと私は思います。中国は日本にとって最も重要なパートナーになるべき国なのです。

米国が衰退し弱体化する一方で、中国は台頭し強大化しています。私はいまこそ、日本が米国の従属的な植民地のような振る舞いを止め、独立した主権国家として行動する時が来ていると思います。

- 日本にとって台湾問題は重要だと思うが、どのように考えているか。

中国の監視社会という点について、オーストリア学派経済学の視点から見た中国からの眺めというフォーラムのサブスタックの記事が参考になります(賀茂川耕助ブログNo.1847、No.1848に記載)。

また台湾問題については、日本は中国に内政干渉すべきではない、ということにつきます。

中国が他国を侵略した例は一度でもあったでしょうか。逆に、日本が最後に中国を侵略したのはいつだったでしょうか。台湾有事＝日本有事は、日本(の一部の人)だけの見方であると思います。

例え米国に仕組まれた罠であったとしても、外交で戦争を回避することが国のリーダーの役割です。

【ご参考】

[賀茂川耕助ブログ No.1847「中国に関する10の作り話 – Part 1」](#)
[賀茂川耕助ブログ No.1848「中国に関する10の作り話 – Part 2」](#)
[賀茂川耕助ブログ No.2726「台湾問題における高市首相の姿勢はまさに西側が望むもの」](#)
[賀茂川耕助ブログ No.2727「台湾をめぐる日中の緊張」](#)
[賀茂川耕助ブログ No.2036「中国が他国を征服しようとならない理由」](#)
[賀茂川耕助ブログ No.2732「日中間の最近の対立」](#)
[賀茂川耕助ブログ No.2746「日本が台湾の戦争に参加したらどうなるか」](#)

10年後のAI・ITと世界

- AIバブルの行方について

AIバブルに関する賀茂川耕助ブログをぜひお読みいただければと思います。

【ご参考】

[賀茂川耕助ブログ No.2717「中国がAI競争で勝利する中、OpenAIはバブル崩壊時に米国政府に救済を懇願」](#)
[賀茂川耕助ブログ No.2725「中国はアメリカのAIバブルをつぶした」](#)
[賀茂川耕助ブログ No.2748「またDeepSeekモメントが起こり、そしてまたおかしなOpenAIの評価額」](#)

- 10年後のAI、ITの状況は、どのように変化していると思うか。

中国は、10年前と比較して大きく変化しており、今や世界の自動車生産の3分の1、世界のEV生産の3分の2を担っています。

2年前、米国がAIで圧倒的に先行していましたが、今や中国はAI分野で米国に並んだか、あるいは追い越している状況です。10年後には中国がAIとITの世界的リーダーになっているでしょう。

- 10年後にリードしている国はどこだと思うか。

19世紀から20世紀初頭にかけて西洋諸国と西洋化志向の勢力によって主権を脅かされる以前、何世紀にもわたって中国が保持してきた強さ、そして1949年以降の急速かつ加速する技術的・経済的成長を考慮すれば、中国は、今後10年、これまでの成長をはるかに超えて、技術的・経済的・道徳的／倫理的に世界をリードし続けるでしょう。

【ご参考】

[賀茂川耕助ブログ No.2610「チップ戦争とレアアースを巡る争い」](#)
[賀茂川耕助ブログ No.2612「究極の中国の競争優位性」](#)
[賀茂川耕助ブログ No.2724「中国型先端技術 – 飽くなき革新への推進力」](#)

- STEM専攻の割合を増やすために、企業として何ができるか？

中国や米国との競争力を重要と考えるなら、企業よりも、国として、政府がそれを実現する政策を策定すべきだと思います。

【ご参考】

[賀茂川耕助ブログ No.2810「AI競争で勝つための中国の秘密計画」](#)

情報ソースとリテラシー

- メディアで報じない事実をどのようにしたら世間に知ってもらえるのか？

私は、インターネットで独立系ジャーナリストの記事やSNSなどすべて英語のソースから情報を得ています。

日本語のニュースしか見ていない社員と話すとき、あまりにも情報が異なっていて驚くことが多々あります。主要メディアはもちろん、私の見ている情報がすべて正しいと押し付けるつもりはありません。ただ、読み比べると発見もあると思います。ぜひ賀茂川耕助ブログをお読みいただきたいし、英語ですが、以下の情報源もおすすめします。

【ご参考】

<https://www.unz.com>

www.youtube.com/@Inside_China_Business

<https://www.youtube.com/cyrusjanssen>

<https://www.jeffsachs.org>

<お問い合わせ>

株式会社アシスト 広報担当 <kouhou@ashisuto.co.jp>

2026/03/19